

## 両国共同挨拶

古代から現代にいたるまで日本と韓国の両国は、地理的、文化的に密接な関係を維持してきた。このような日韓関係を指して「近くて遠い国」と称するように、両国の間で人的、文化的交流が活発に行われ、その一方で植民地支配や戦争という不幸な時代も経験している。特に後者との関連では、両国の間に歴史認識の違いが存在し、いわゆる「教科書問題」が起きてから随分と時間が経っている。

このような歴史論争を解決し、未来志向の歴史教育のために、両国は2001年に日韓歴史共同研究委員会を設置した。第1期の活動に続き、2007年6月には第2期が発足し、日韓両国の教科書問題を扱う教科書小グループを新たに設置した。本教科書小グループでは、多面的な交流を軸とした日本史と韓国史とのつながりを中心に考えながら、教科書の叙述に表れた両国の歴史に関する相互イメージや評価を虚心に比較検討してきた。

そして、2009年11月7日にソウルで開かれた第12回目の合同会議での率直な意見交換と議論を最終的な土台として、本報告書がつくられたのである。

教科書小グループには、両国からそれぞれ6名、12名の委員が参加した。日本側は古田博司(筑波大学)、山内昌之(東京大学)、重村智計(早稲田大学)、山室建徳(帝京大学)、木村幹(神戸大学)、永島広紀(佐賀大学)、韓国側は、李讚熙(韓国教育開発院)、金度亨(延世大学校)、辛珠柏(延世大学校)、鄭在貞(ソウル市立大学校)、鄭鎮星(ソウル大学校)、玄明喆(京畿高等学校)の諸委員である。

初めて設置された小グループであったため、共同研究の主題をどうするか、また、他の分科会の活動とどのようにリンクするのか、といった問題をめぐって多くの議論が行われた。

当初においては他の分科会との重複を避けるために教科書の内容は扱わず、教科書の理念と変遷制度のみを扱うべきという意見があり、あるいは直接教科書の内容だけを扱うことが共同研究委員会設立の本来の趣旨に合うものだという意見もあった。こうして、無慮6ヶ月にも及ぶ議論をへて、研究活動のテーマを、日韓両国の歴史教科書の理念、教科書の編纂制度、教科書の記述ぶり等の項目に定めることになった。

- ・理念 —教科書の近代・近代性
- ・変遷 —教科書編纂制度の変遷  
—教科書問題の史的展開
- ・記述ぶり —教科書に表れた戦争

- －教科書に表れた近代法秩序と国家
- －教科書に表れた現代・現代史
- －教科書に表れた民族・民族運動

このように決定された個別の主題に基づいて、平均すると2ヶ月に1回ずつ、日本と韓国を行き来しつつ共同発表会を開催し、発表された内容についてじっくりと討論を行った。

共同研究は委員が中心になって行われたが、委員が担当するのが困難な主題については、当該分野の専門家を研究協力者(共同研究者)として委嘱し、報告してもらった。このような形で参加したのは、日本側では飯村友紀(筑波大学)、石田雅春(広島大学)、井手弘人(長崎大学)、井上直樹(京都府立大学)、太田秀春(鹿児島国際大学)、福岡寛之(福岡大学)、韓国側では延敏洙(東北亜歴史財団)の諸氏であった。

共同で実施した研究発表において、我々は依然として残る日韓間の歴史認識の違いを確認し、時には共同研究を通じた歴史認識の共有の可能性を感じることもあった。活動の途中、一時合同会議を開催できないという困難にも直面したが、将来を見据えた日韓関係をつくり出すため、互いに譲歩することもあった。本共同報告書は、このような紆余を経て刊行された。

この共同研究の最終段階は、たまたま日韓双方における新政権の成立とも重なった。2009年10月9日に日韓両国の首脳は共同記者会見をおこなった。まず李明博大統領は、次のように述べた。「私は、鳩山総理が過去を直視する中、誠実さと開かれた心で、韓日関係を未来志向的に発展させていくという立場を明らかにされた点を高く評価し、両首脳は今後『近くて近い』韓日関係発展のため、緊密に協力していくことで一致した」。

これに対して鳩山由紀夫首相は、次のように語っている。「韓国と日本との間にはいろいろな懸案があるが、新政権は歴史をまっすぐ正しく見つめる勇気を持った政権である。ただし、何でも解決できるわけではなく、時間的な猶予が必要である。未来志向で日韓関係を良好に発展させていくことは、アジアのみならず、世界の経済及び平和にとって重要であり、この点につき大統領からも共感が示された」。

「近くて近い」日韓関係の基礎をつくるのは、われわれ日韓歴史共同研究委員会・教科書小グループの委員たちの使命でもあった。ただし、こうした問題意識をもった歴史共同研究であっても、「何でも解決できる」わけでないことも直視すべきであろう。両国首脳の志にもつながる日韓歴史共同研究ことに両国教科書の比較検討と研究に必要なのは、何よりも歴史事実の解釈における率直さと公平性であった。教科書小グループの日本と韓国の学者たちは、この点において何よりも互いに謙虚であるように努力した積もりである。

私たちの共同研究を実り豊かなものとするために、東アジアや世界の文脈で両国の歴史を多面的に

眺める工夫をした。こうした広い視野は、2009年10月9日の日韓両首脳の共同記者会見の精神とも通底しており、新しい時代の日韓歴史共同研究にふさわしい成果になったと自負している。

こうして、本報告書の作成に向けて、日韓ともにほぼ重要分野を網羅する研究者が揃うことになった。これほどのメンバーが日韓双方で同じテーマで論文を執筆し、双方の教科書認識を理解しながら率直に議論したことは、かつてない貴重な経験であり有益な作業だったと考えている。あえて言えば、「自分の意見と異なる意見」の尊重こそ教科書小グループにおける日韓歴史共同研究を進める基本条件となったことを指摘しておきたい。この精神に立った本報告書は、不十分ながら、あしかけ3年間にわたる日韓両国の専門家による努力の証なのである。読者諸賢におかれては、私どもの微衷を御斟酌いただければ幸いである。

2009年11月28日

教科書小グループ日韓両国委員一同

## 研究委員

### 研究協力者・共同研究者名簿

#### 日本側

##### 研究委員（幹事以下五十音順）

幹事	古田 博司	筑波大学大学院人文社会科学研究科 国際公共政策専攻 教授
	木村 幹	神戸大学大学院国際協力研究科 教授
	重村 智計	早稲田大学国際教養学院 教授
	永島 広紀	佐賀大学文化教育学部 准教授
	山内 昌之	東京大学大学院総合文化研究科 教授
	山室 建徳	帝京大学理工学部 准教授

##### 研究協力者（五十音順）

	飯村 友紀	筑波大学大学院 博士特別研究員
	石田 雅春	広島大学文書館 助教
	井手 弘人	長崎大学教育学部 准教授
	井上 直樹	京都府立大学文学部 准教授
	太田 秀春	鹿児島国際大学国際文化学部 准教授
	福嶋 寛之	福岡大学人文学部歴史学科 専任講師

## 韓国側

### 研究委員（韓国側指定順）

幹事	李 讚 熙	韓国教育開発院 碩座研究委員
	鄭 在 貞	ソウル市立大学校人文大学国史学科 教授
	金 度 亨	延世大学校文科大学人文学部史学科 教授
	鄭 鎭 星	ソウル大学校社会科学大学社会学科 教授
	玄 明 喆	京畿高等学校 教師
	辛 珠 柏	延世大学校国学研究院 HK研究教授

### 共同研究者

	延 敏 洙	東北亜歴史財団歴史研究室 研究委員
--	-------	-------------------

# 活動報告

## 2007年

6月22日 麻生太郎外務大臣表敬(東京／外務省)

6月23日 第1回全体会議(東京／ホテルニューオータニ)

### 第1回合同会議

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

9月14日 第2回合同会議(ソウル／延世大学校サンナム経営館)

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

10月13日 第3回合同会議(東京／日韓文化交流基金会議室)

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

11月24日 第2回全体会議(ソウル／ロッテホテル・ソウル)

### 第4回合同会議

出席者:

(日本側)古田委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

\*教科書の理念、編成・制度、記述ぶりに関する共同研究テーマ8つが決定

## 2008年

1月12日 第5回合同会議(鹿児島／城山観光ホテル)

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(研究発表者)

李讚熙(研究委員)「韓日中学校歴史教科書の発行制度及び運用実態研究—韓国史教科書、国定制から検定制へ—」

木村幹(研究委員)「王宮が消滅する日—近代における朝鮮王権」

5月31日 **第6回合同会議(濟州特別自治道・西帰浦市／西帰浦KALホテル)**

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(研究報告者)

玄明喆(研究委員)「日本の教科書に現れた戦争記述の変化」

山室建徳(研究委員)「日本における国定教科書の導入とその変遷」

辛珠柏(研究委員)「韓日の歴史教科書に記述された現代・現代史」

6月7日 **第3回全体会議(東京／ヴィラフォンテーヌ汐留)**

**第7回合同会議**

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(研究報告者)

永島広紀(研究委員)「朝鮮総督府学務局の教科書編纂と『国史／朝鮮史』教育」

10月28日 **第8回合同会議(札幌／北海道大学)**

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、重村委員、山室委員、木村委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(研究報告者)

鄭在貞(研究委員)「韓国と日本の歴史教科書に書かれた近代の肖像」

鄭鎮星(研究委員)「韓日近代史叙述のジェンダー偏向性比較研究」

山内昌之(研究委員)・古田博司(研究委員)「日韓歴史教科書における『東アジア文化圏』論の変遷」

11月29日 **第4回全体会議(ソウル／ホテルロッテ・ソウル)**

**第9回合同会議**

出席者:

(日本側)古田委員、重村委員、木村委員、山室委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員

(研究報告者)

朴贊勝(漢陽大・史学科)「韓日歴史教科書に記述された民族問題と民族運動」

12月19日 合同シンポジウム(東京／ホテルニューオータニ)  
～20日

2009年

1月10日 第10回合同会議(釜山広域市／海雲台・グランドホテル)

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、重村委員、木村委員、山室委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(研究報告者)

金度亨(研究委員)「韓日の歴史教科書に記述された近代韓日関係と条約」

木村幹(研究委員)「日韓の歴史学界における『内発的発展論』と歴史教科書」

朴三憲(建国大・日語教育科)「歴史教科書問題に関する1980年代の日本の対応論理—『臨時教育審議会』の設置論理を中心に—」

4月4日 第11回合同会議(大分／ゆふいん山水館)

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、鄭在貞委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(研究報告者)

井手弘人(長崎大学教育学部)「韓国歴史教育の変遷を概観する —『メタ認識』による対話のために—」

井上直樹(京都府立大学文学部)「韓国の歴史教科書の古代史記事と『国史』」

太田秀春(鹿児島国際大学国際文化学部)「前近代の日韓関係と対外戦争 —朝鮮の役の諸問題—」

11月7日 第12回合同会議(ソウル／ロッテシティホテル・麻浦)

出席者:

(日本側)古田委員、山内委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(研究報告者)

飯村友紀(筑波大学博士研究員)「韓国現行教科書の叙述に見られる基本構造とその特徴—南北統一と「世界化」そして「開かれた民主主義」—」

延敏洙(東北亜歴史財団)「日本歴史教科書の古代史叙述体系と民族・天皇問題」

辛珠柏(研究委員)「韓日歴史教科書問題の史的展開(1945～2001)」

福嶋寛之(福岡大学人文学部)「教育闘争の論理—進歩的教育学者・宗像誠也の「国民の

教育権」をめぐって―」

石田雅春(広島大学文書館)「戦後日本における教科書問題」

11月28日 **第5回全体会議(ソウル／ホテルロッセ・ソウル)**

**第13回合同会議**

出席者:

(日本側)重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(研究報告者)

重村智計(研究委員)「日韓相互Orientalismの報告―現代史の記述ぶり分析―」

12月19日 **合同批評会(東京／日韓文化交流基金会議室)**

～20日 出席者:

(日本側)山内委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

(韓国側)李讚熙委員、金度亨委員、鄭鎮星委員、玄明喆委員、辛珠柏委員

(この他日本側では独自の活動として、下記の行事・研究会合を執り行った。)

**2007年**

6月15日 **安倍晋三内閣総理大臣表敬(東京／首相官邸)**

日本側教科書小グループからの出席者:

古田委員、山内委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

**2008年**

3月30日 **日本側教科書小グループ台湾調査および研究会(台北／華泰王子大飯店)**

出席者:古田委員、山内委員、重村委員、山室委員、永島委員

(招聘者)

陳培豊(中央研究院台湾史研究所)

吳叡人(中央研究院台湾史研究所)

吳文星(台湾師範大学歴史学系)

張勝彦(台北大学人文学院)

蔡錦堂(台湾師範大学台湾史研究所)

朱立熙(二二八事件紀念基金会)

5月31日 **日本側教科書小グループ研究会(広島／ホテルグランヴィア広島)**

参加者:古田委員、重村委員、山室委員、木村委員、永島委員

オブザーバー:原田委員(第三分科)※午後より

(招聘報告者／所属は当時)

田中悟(神戸大学特別研究生)「現代韓国における死者と政治—独立記念館から国立墓地まで—」

井上直樹(京都府立大学文学部)「『韓国古代史』と歴史帰属問題」

石田雅春(広島大学文書館)「戦後日本における教科書問題」

小池聖一(広島大学大学院国際協力研究科・文書館長)「森戸辰男と戦後文教政策」

福嶋寛之(福岡大学人文学部)「戦中戦後の文部省と教育学者」